

■編集後記■

●最近、コミ福祉学会の歴史を学ぼうとバックナンバーを揃えてみたのですが、今回の「第8号」が一番、内容も含めて重量感のあるものになっていると感じています。（自画自賛！）そして、第8回大会のテーマと連動する特集を組み込み、さらに画期的な試みとして『第1回研究実践奨励賞』の受賞者も公表されるなど、とてもバラエティに富んだ読み応えのあるものになりました。僕にとって、特に「特集：戦後70年」が聞いかけの意味を学ぶことは、「現在から未来に向かう希望と平和の眼差しを覚醒させる力になる」ことを実感する善き経験となりました。いつも、「終わりは、次の始まりにすぎないのだ」と自分に言い聞かせながらも、忙しい中、時間を割いて原稿執筆された皆様のご尽力に心より感謝の気持ちを捧げたいと思います。

（編集長 結城俊哉）

●本誌の編集委員は2年目になりますが、昨年は研究休暇で他の編集委員にお任せしてしまったので、本号が初めての編集委員としての仕事になります。校正を事務局からいただきそのボリュームに驚きました。今号も多く執筆からの原稿で充実した内容になりました。大会に参加できない方にも本誌を通じてコミュニティ福祉学会の活動を知ってもらい、卒業生相互の刺激の場になればと思います。ご一読を。

（副編集長 三本松政之）

●今年も、在学生や卒業生また教員の方々の今の実践や研究を知ることのできる内容になっており、今回はさらに読み応えのある量にもなっていますね。そして学会大会のテーマとともに戦後70年の特集も組まれています。過去の歴史の上に今があり、そして未来がつながっていきます。この社会において平和とは何か、幸せとは福祉とはどうあることを改めて考えながら、これからも様々な人生に関わらねばと感じています。

（編集委員 大川真央）

●本号では、無関心でいることから脱してほしいと願ひもこめて、戦後70年を特集として組みました。末崎さんもエッセイの中で書いていらっしゃるように、本誌の企画当初は、若い人の関心の薄さに非常に危機感を感じておりました。皆様から頂いた論文やエッセイには、たくさんの参考引用文献もあります。関心を持って一冊でも手にする機会となり、歴史を知り未来を考える一歩を踏み出して頂けたらと思います。投稿頂いた皆様に心より感謝申し上げます。

（編集委員 片山友子）

●本誌の原稿を募集する段階では、戦後70年の特集を組むことは決まっていなかったにも関わらず、関連するご寄稿が複数あり、3年振りに特集を組むことになりました。研究実践奨励賞の新設の効果か、お陰様で、多くの原稿が集まり、事務局は嬉しい悲鳴でした。お手にとりやすいA5判の可愛い『まなびあい』。より多くの方に読んでいただくことが、事務局の切なる願ひです。

（事務局 小林裕子）

立教大学コミュニティ福祉学会『まなびあい』第8号

2015年11月10日発行

発行者 浅井 春夫

編集者 結城 俊哉

発行所 立教大学コミュニティ福祉学会運営委員会事務局

〒352-8558 埼玉県新座市北野1-2-26

TEL. 048-471-7308

印刷所 東銀座印刷出版株式会社